

『40年以上白神ねぎを栽培してきて、8月の豪雨被害はこれまで経験したことのないものであったが、行政機関などからの多大なご支援に、ねぎ部会を代表して感謝申し上げます。

本年度は様々な悪条件が重なり目標販売額を達成することは出来なくて残念でしたが、既に、育苗作業など来シーズンに向けて取り組んでいる方々も多いかと思えます。

部会員一丸となって「白神ねぎ」の最大の武器である、白神山からの自然の恵み「天」と、ネギ栽培に適した広大な大地「地」、そして、先輩から受け継がれる栽培技術「人」。『天地人』を最大限に活かして、20億円販売の大台を突破し、全国トップランナーを目指して頑張ってください！』



2年ぶり17億円販売突破！ 来季、20億円の 大台突破を誓い合う！！ ねぎ部会実績検討会



『8月の豪雨被害により生産者の皆さまにおかれましては、その後の生育管理に大変ご難儀したことと思いますが、その被害をも乗り越え、県内外の市場関係者、外国（台湾）の消費者までもが満足する、高品質の「白神ねぎ」を多数出荷頂いたことに衷心より敬意を表します。

更なる知名度向上と併せ、大消費地の需要に応えられる産地拡大を進め、「白神ブランド」の青果物が、世界品質で地域が豊かになるよう、これからも共に取り組んでいきましょう！』

1月26日にねぎ部会（大塚和浩部会長）による実績検討会が開催されました。今年度は、171経営体が215haに「白神ねぎ」を作付けし、例年よりも10日以上早いペースで17億円（1月12日到達）の販売額まで積み上げましたが、8月の大雨被害の影響もあり、今年度の目標販売額21億円には残念ながら届かない見通しであることが報告されました。

しかしながら、ねぎ部会が目標の一つに掲げている「A品率の向上」については、前年度対比2.3ポイントアップの75.5%まで向上。販売課清水経営相談員は「来年度は、A品率と合わせて、更に、反収も向上させ、自身の収益の向上に繋げてもらいたい」と来シーズンに向けて呼びかけます。

当組合では3月まで続く「白神雪中ねぎ」などの出荷による販売額の積み上げで、初の18億円越えに期待を寄せています。

秋田テレビ
LiveNewsあきた!
(2月2日放送)

能代市出身の
佐藤愛純アナウンサーが
「白神雪中ねぎ」の収穫を体験し、
同番組で紹介してくれました!



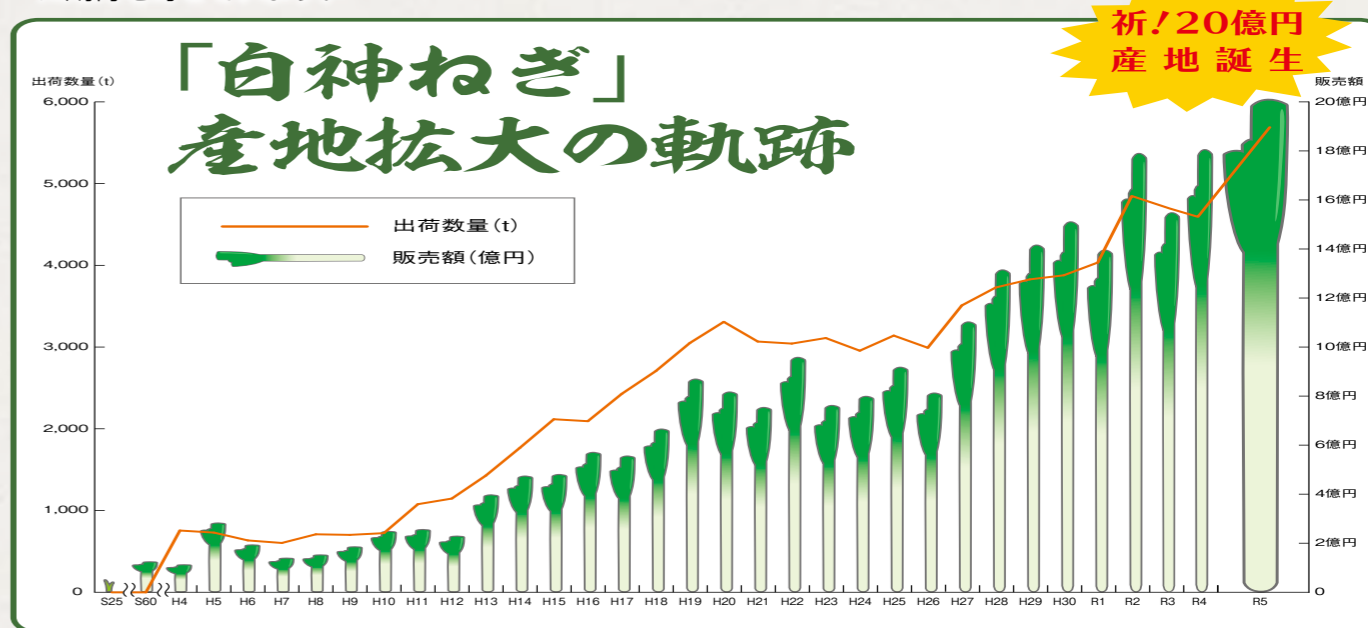
圃場内の排雪作業を手伝う佐藤アナウンサー



重い白神雪中ねぎの束を「ヨイショ」と持ち上げる



雪中ねぎの収穫作業に励む生産者



祈！20億円
産地誕生

トロっと甘い糖度は13度!? お鍋に最適「白神雪中ねぎ」収穫盛期

能代市河川地区を中心に「白神雪中ねぎ」の収穫が今盛んに行われています。白神ねぎ生産者が厳しい寒さや雪と戦いながら畑で作業に励み、甘みが増した良質なネギが次々と出荷されます。

「白神雪中ねぎ」は12月の降雪前に掘り取ったネギを束にし、雪前に植え替え、不織布で覆って保存し、年明けから3月にかけて出荷するもので、冬季間の収入源として40年ほど前から、土壌が砂地の河川地区なら、は、伝統農法として取り組まれている。現在では同地区の「白神ねぎ」生産者約10経営体が手掛けます。

また、河川地区外の生産者も育苗用のビニールハウス内などで、ネギを囲うため、雪中ではなく「寒締め」という位置付けで出荷。

雪中貯蔵することで、ネギの糖度が上がり、甘みが増すとされる「白神雪中ねぎ」。

白神ねぎ部会大塚和浩部会長は「以前糖度を調べたところ、13度以上あった。ネギではなかなかない水準であることから、多くの消費者には是非一度味わってほしい」と話します。

J A あきた白神が誇る主力品目である「白神ねぎ」の今年度販売額は2月7日出荷分で1億3300万円に達しました。過去最高販売額更新を目前に地全体の奮起に期待を寄せています。



収穫作業に励む池端さん

アスパラガス部会（大高勝信 部会長）の部会員らが所有するビニールハウス内で促成アスパラガスの収穫が最盛を迎えました。

能代市二ツ井町で促成アスパラガスを栽培する池端伸吾さん（40）のビニールハウスの中は、瑞々しく鮮やかな緑色のアスパラガスがびっしりと育ち、池端さんは、長さ30cmほどに生じたアスパラガスを選んでハサミで手際よく切り取って収穫していました。

「昨年8月の記録的豪雨による冠水被害により、株の加温用ボイラーが故障するなど大打撃を受けたが、収穫期を迎えることが出来て安堵している。多くの消費者に甘くて柔らかい「あきた白神ブランド」のアスパラガスを食べてもらいたい」と池端さんは収穫作業に励みます。

販売担当者は「消費者に選ばれる商品作りを心がけながら、本でも多く出荷してほしい」と収穫最盛を迎えた促成アスパラガスに期待を込めます。

「白神ブランド」の甘い促成アスパラガスは、生産者らによる収穫は春先まで続きます。

セルフメンテナンスの普及で生産コスト低減へ

農業機械課では、各種農機具の格納整備が繁忙期を迎えています。

整備工場内には、大豆の収穫を終えた大型コンバインや年中フル稼働していたネギ収穫機などが次々と入り、翌シーズンの活躍に備えています。

整備場内は、屋外とほぼ同じ気温なので、担当職員らは指先を赤くして寒さとも戦いながら、分解洗浄や各部作動点検・調整、グリスアップなど、パーツの一つ一つまで細心の注意を払いながら整備作業に当たっています。



ネギ収穫機の動作確認を行う担当職員

農業機械課では、担当職員総動員でご依頼頂いている格納整備を確実に仕上げ、3月からはトラクターや田植え機の点検など春整備の準備に移行していきます！

セルフメンテナンスを日常的に行うことで、大きな故障予防に繋がります。修理コストの低減、故障による作業時間ロスの低減、農業機械の長寿命化などの効果があり、生産費のコストダウンと取りの最大化が十分期待できる」と生産者らによるセルフメンテナンスも普及させていきたいと意気込みます。

利便性が浸透し、『営農資材の注文サイト』利用率が60%超え



本年度設置したタッチパネルで注文する生産者（左）と相談を受ける職員

「いつでも、どこでも、簡単に」をコンセプトに2020年度に稼働開始した「営農資材Web注文サイト」の9月～12月末に注文を受け付ける、次年度用営農資材の初年度利用率は、予約注文数約960経営体のうち、35%に相当する約350経営体がWEB注文を利用していましたが、稼働4年目を迎えた本年度は、同期間に予約注文した約1000経営体のうち、65%の

約650経営体が同システムを利用し、Web注文サイトが順調に普及してきております。

経済部では、①営農指導員と地域農業の担い手に向くJ-A担当者（愛称TACCスタッフ）と連携し、タブレット端末を携帯して農家組合員と対話しながら、操作説明をしてきた点。②今年度から管内3カ所の拠点施設に導入した「タッチパネル端末」を使用した窓口での注文受付が、スマートフォンなどの扱いに不慣れな高齢農家組合員への普及拡大につながったと分析しています。

農業者の所得増大には生産コストの低減は重要なことから、引き続き、営農部と経済部が連携し、仕入れ価格の引き下げを図ってまいります。また、農家組合員の皆さまが「営農資材Web注文サイト」を使って注文することで、予定当用価格から12%ほど値引きとなる他、秋田県版農業経営管理支援システムに反映され、税務申告などでの労力が大幅に軽減されることから、今後も、TACC職員を中心に「営農資材Web注文サイト」の普及に努めることとしており、経済課主任課長は「肥料価格の高騰対策の一環として、農業者の生産コスト低減につながるよう相談活動を強化するとともに、同システムを幅広い年代層に普及させていきたい」と意気込みます。

いつでも、どこでも、簡単に営農資材(肥料/農薬) WEB注文組合員専用サイト

令和5年度 当用注文は 4/1 受付開始!



WEB注文で 全商品割引

下記、URLまたはQRコードからログイン頂き簡単注文!! <https://akita-shirakami.net/order/>

